

令和4年度(2022 年度)
第 2 回熊本博物館協議会

令和 5 年(2023 年)2 月 14 日(火)午前 10 時

熊本博物館

議事 令和5年度事業計画について（案）

1. 展示活動	・ ・ ・ ・ ・ P 1
2. 博物館における教育・普及活動	・ ・ ・ ・ ・ P 5
3. 保存修復事業	・ ・ ・ ・ ・ P 11
4. 施設整備事業	・ ・ ・ ・ ・ P 12
5. 塚原歴史民俗資料館関係	・ ・ ・ ・ ・ P 13

1 展示活動

(1) 特別展

①熊本博物館夏季特別展「新世界 透明標本展」

【目 的】 「透明標本」は、透明化した筋肉の中に赤く染めた硬骨と青く染めた軟骨が生きていた時のままの配置で観察できる標本。その美しさは研究用資料にとどまらず、芸術作品と言っても過言ではない。この展示会では、さまざまな動物の洗練された骨格の機能美をご覧ください、進化の歴史のすばらしさ、生物多様性の面白さを感じていただく。

【内 容】 学術コーナー

- ・透明標本の作製方法、学術的意義等についての紹介
- ・さまざまな分類群の動物の骨格についての解説
- ・アートコーナー
- ・透明標本 + 音と光と映像が織りなす不思議な世界
- ・芸術品としての透明標本

【会 場】 特別展示室 1・2・3

【期 間】 令和 5 年 7 月 15 日（土）～ 令和 5 年 9 月 3 日（日）

(2) 企画展・共催展

①企画展（飯田丸五階櫓奇跡の一本石垣復旧記念）

「清正から受け継いだ名城—加藤忠広と熊本城—」

【目 的】 本展は、未曾有の地震被害を受けたことにより、はっきりとわかってきた特別史跡熊本城跡に遺された石垣の構築履歴やその価値、特に全国的に有名な加藤清正とその後の熊本城主細川家の狭間であまり注目されてこなかった加藤忠広とその時代の熊本城を語る資料に焦点をあてて展示し、熊本博物館も立地している広大な面積を有する熊本城の歴史的価値を多くの方に知ってもらう。

【内 容】 ・特別史跡熊本城跡出土遺物〈考古資料〉（当館所蔵、熊本市教育委員会所蔵）
・熊本城関連支城群出土遺物〈考古資料〉（熊本県・県内市町村所蔵） ほか

【会 場】 特別展示室 1・2・3〈予定〉

【期 間】 令和 5 年 10 月 14 日（土）～ 12 月 17 日（日）〈日程調整中〉

②企画展「資料保存の世界—博物館のウラガワ—」（仮）

【目 的】 博物館は調査研究・展示・教育普及という役割に合わせて、管理・保存としての側

面も合わせもつ。人文資料、自然史資料を収蔵する総合博物館として、資料の展示・活用に様々な取り組みが行われる一方で、多面的な角度から受ける影響も考慮しなければならない。

本展覧会では、科学的に見た資料の調査結果や保存処理・修復の工程、劣化要因などに注目し、対象となる資料と保存に関する道具を展示することで文化財保護の裏側について紹介する。

【内 容】 博物館が資料を保存するうえで気を付けていることや、家庭等でも気を付けるべきことなど幅広く紹介する。

- ・文化財の科学的調査とは
- ・資料の保存処理・修復
- ・文化財害虫と被害資料
- ・資料保存環境調査

【会 場】 特別展示室 1・2

【期 間】 令和 6 年 3 月 9 日（土）～5 月 12 日（日） ※日程調整中

③立田山の自然～身近な自然立田山の魅力～

【目 的】 身近な自然とのかかわり方について考え、理解を深めてもらう。

【内 容】 地質・動物・植物の資料により、立田山の変遷や成り立ち、自然環境などについて幅広く紹介する。

【会 場】 特別展示室 3

【期 間】 令和 5 年 3 月 18 日（土）～5 月 15 日（日）

④共催展「いきものフェアくまもと 2023」

【目 的】 生物多様性について楽しく学べる参加型・体験型のプログラムの実施を通して、私たちの暮らしが生物多様性に支えられていることや生物多様性を守ることの大切さを知り、市民自らが行動するきっかけを提供する。

【内 容】 生物多様性の日イベントとして熊本市動植物園にて開催
(熊本博物館・動植物園・環境総合センター・環境共生課)

【会 場】 熊本市動植物園

【期 間】 令和 5 年 5 月 20 日（土）、5 月 21 日（日） ※日程調整中

⑤共催展「熊本市遺跡発掘速報展」

- 【目 的】 最新の熊本市内の発掘調査成果の公開
- 【内 容】 文化財課との共催、近年に発掘した遺跡の出土遺物や解説パネルの展示を行う。
- 【会 場】 特別展示室 3
- 【期 間】 令和 5 年 12 月～令和 6 年 2 月頃 ※日程調整中

(3) その他の展示会

①「肥後しゃくやく展」

- 【目 的】 栽培者はわずか数名で、一般の方が鑑賞できる機会は少ないため、熊本の伝統園芸として、広く知っていただく貴重な鑑賞の機会とする。
- 【内 容】 肥後しゃくやくの切り花を展示。
- 【会 場】 塚原歴史民俗資料館
- 【期 間】 令和 5 年 5 月初旬を予定

②「肥後朝顔 秋の展示会」

- 【目 的】 肥後六花の一つである肥後朝顔を一般の方々に鑑賞していただき、伝統園芸として広く伝え、普及・啓発を図る。
- 【内 容】 肥後朝顔涼花会が栽培した肥後朝顔を展示。
- 【会 場】 水前寺成趣園 古今伝授の間
- 【期 間】 令和 5 年 9 月 1 日（金）～3 日（日）

(4) プラネタリウム関係

①プラネタリウム投映

- 【目 的】 星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。
- 【内 容】 ①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、スタッフの解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。
②幼稚園・保育園・こども園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。
③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映、聴覚障がい者向けの「字幕付きプラネタリウム（年度内に 4 度開催）」等を実施する。
- 【期 間】 令和 5 年度（通年）

②天文講演会

- 【目 的】 天文・宇宙に関する最新の話題を研究者の生の声で伝える機会を提供する。
- 【内 容】 天文・宇宙分野において第一線で活躍されている研究者を招き、最新の天文学について講演いただく。
- 【期 日】 令和 5 年度は年に 4 回開催予定 ※日程調整中

③プラネタリウム特別投映

- 【目 的】 プラネタリウム活用の一環として、通常のプラネタリウム投映とは異なる 1 回限りの特別なプログラムを投映する。
- 【内 容】 11 月 23 日：熟睡プラ寝タリウム（気持ち良く眠っていただくプログラム）
他は未定
- 【期 日】 令和 5 年度は年に 4 回実施 ※日程調整中

④字幕付きプラネタリウム

- 【目 的】 聴覚に障がいのある方など、より多くの方々にプラネタリウムを楽しんでいただけるよう、音声だけではなく、字幕でもでも解説を行う「文字で楽しめる」プラネタリウム。
- 【内 容】 一般投映番組の字幕付き投映
- 【期 日】 令和 5 年度は 4 回実施予定 ※日程調整中

2 博物館における教育・普及活動

(1) 講座・講演会等

通年講座の開催

①動物学講座

【目 的】 室内講座や野外観察を通して動物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高める。

【内 容】 令和5年度は5月～翌年3月まで奇数月に実施。全6回。小学4年生以上対象。室内学習や野外での観察会など。

②植物学講座

【目 的】 室内解説や野外観察を通して植物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高める。

【内 容】 令和5年度は4月～12月まで偶数月に実施。全5回。室内学習や野外での観察会など。

③地質学講座

【目 的】 化石・岩石・鉱物等、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発を図る。

【内 容】 令和5年度は6月～翌年2月までの偶数月に実施。全5回。各回テーマを設定し、室内学習を行う。

④民俗学講座【新規】

【目 的】 熊本博物館の民俗資料に関する学習。民俗学に関する興味・関心を高める。

【内 容】 令和5年度は4月～翌年2月までの偶数月に実施。全6回。各回テーマを設定し、室内学習を行う。

⑤考古学講座

【目 的】 土器や石器など「もの」から人類の歴史を学び、考古学に関する興味・関心を高める。

【内 容】 令和5年度は5月～翌年3月まで奇数月に実施。全6回。各回テーマを設定し、一般を対象として、室内講座と体験学習を行う。

⑥保存科学講座

【目 的】 室内講座や解説を通して保存科学の概要を知ってもらい、文化財の保存に対する興味・関心を高める。

【内 容】 令和5年度は5月～翌年3月まで奇数月に実施。全6回。

⑦くまはくの ゆるゆる美術部

【目 的】 熊本市域のあまり知られていない美術について、関心を持ったり調べたりするきっかけ作りを行う。

【内 容】 令和5年度は、6・9・1月の年3回活動。学芸員と参加者が一緒に調べたり、寺社の見学などを行う予定。

その他の講座、講演会等

⑧自由研究相談会

【内 容】 動物・植物・岩石・化石・理科実験・科学工作・天文などのテーマを中心に、小中学生を対象とした夏休みの自由研究の進め方や標本の収集方法、調べ方、まとめ方などについての助言を行う。

【期 日】 ①テーマ設定：7月23日（日） ※日程調整中

②まとめ・標本同定：8月20日（日） ※日程調整中

※感染症の流行状況によっては予約制の個別面談で行う（予定）。

《GW・大型連休中の催し》

⑨「G・W！大型連休は熊博へ」

【目 的】 学芸員・研究員の専門性を活かし、GW期間中に多様なイベントを開催し、博物館活動の多面的な魅力を伝える。

【内 容】 各学芸員・研究員の各部門の特徴を活かしたイベント考え、内容を工夫して行う。

【期 間】 4月29日（土・祝）～5月7日（日）までの土・日・祝日：7日間実施予定

《2月：くまはく誕生月間の催し》

⑩「くまはく誕生月間イベント（2月）」

【目 的】 昭和27年（1952）年2月4日に開館した熊本博物館の誕生月にちなみ、2月の土・日・祝日に各種イベントを開催することで当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝える。

【内 容】 各学芸員・研究員の各部門の特徴を活かしたイベント考え、内容を工夫して行う。

【期 間】 令和 5 年 2 月：土・日・祝日の予定 ※日程調整中

(2) 学校教育支援事業

①ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

【目 的】 博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

【内 容】 主に小学校「社会科・理科」の授業を中心に、学芸員・研究員をゲストティーチャーとして派遣する。各分野の専門性や所管資料を生かし、実施可能な範囲で担任の指導を補佐しながら学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める。派遣授業の内容を、タブレット端末のアプリ（Zoom）を活用して遠隔で行うなど、今後も感染症の流行状況や学校からの要請に応じて取り組む。

※令和 2 年度に「プログラム集」を改定・配布。

※小学校・中学校の共通題材として、総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣もあり。

【対象者】 主に熊本市内の小中学校の児童・生徒・教職員（92 小学校、42 中学校）

【期 間】 令和 5 年度（通年）

②学校 PTA 活動支援/社会教育施設開催講座協力

【内 容】 自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級 PTA 活動や公民館講座などに講師として参加。内容の充実及び活動目的達成のための支援を行う。

※子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつかの題材を選んで提供し、共に活動を楽しむ。

【対象者】 主に小・中学生

【期 間】 令和 5 年度（通年）

③館内学習支援活動（お迎え事業）

【目 的】 「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時のオリエンテーション等において、館内展示資料の価値や魅力を紹介することで座学後に行う館内見学（学習）への興味・関心を高める。

【内 容】 オリエンテーションの際に、館内展示物の価値や魅力を紹介し、館内見学への期待感を高めるとともに見学の視点を与える。団体予約時に館内学習プログラム集の中から1～2題材（1題材：15分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施。

※令和3年度に「プログラム集」を改定・配布。【対象者】小中学校団体全般（市内・外）

【期 間】 令和5年度（通年）

④博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）

【目 的】 小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3年生または4年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。

【内 容】 上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行。館内スケジュールについては学校と相談して決定するが、基本的にはプラネタリウムの学習投映、館内学習プログラム体験（1～2本）、館内展示物見学などを盛り込んで実施する。

【対象者】 主に熊本市立の小学校：全15校 主に中学年児童・教職員

【期 間】 令和5年度（通年）

⑤教職員研修等への協力支援（主催・参画・協力等）

【目 的】 学校教育支援事業を補完する諸活動を実施し、博学連携の一層の充実を図る。

【内 容】 教職員としての資質・能力の向上に資するための協力支援を行う。

- ・夏季休業中の教職員研修講座「館内プログラム解説編」
- ・小中学校「理科実技研修会（講習会）」
- ・指導課・教育センター主催講座への協力
- ・教科等主任会（理科主任会等）からの要請講座
- ・教職員（及び中学生・高校生）の社会体験研修受け入れ
- ・教員のための博物館の日（※）実施協力

※博物館活動に親しむ機会を設け、博物館の資料や事業は「授業に活用できる貴重な学習指導の資源」であることを体験的に伝える。

- ・その他、上記の目的に沿う活動への協力

【対象者】 教職員

【期 間】 令和 5 年度（通年）

⑥熊本エデュケーションウィーク（KEW）での「博学連携事業の紹介動画」

制作及び配信

【目 的】 当館が行っている「博学連携事業」の一端を、学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方向けに広く周知する。

【内 容】 令和 2 年度から「豊かな人生とよりよい社会を創造するために自ら考え主体的に行動できる人を育むとして」熊本市教育委員会が主体となって始めた取組で、当館は令和 3 年度より参画。昨年度は、館内での学習支援活動の様子、ゲストティーチャー派遣授業の様子、それらと関連した Zoom による遠隔授業・遠隔解説、オンライン学習支援の取組等を 40 分程度の動画にまとめて紹介し、本年度はそれ以外の「博学連携事業（教職員研修講座・中高生の職場体験事業・大学生の博物館実習等）」について紹介した。

【対象者】 学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方

【期 間】 令和 5 年度（R6 年 1 月下旬が K E W 期間：予定）

⑦子ども科学・ものづくり教室

【内 容】 主に小中学生を対象に「科学実験や科学工作」などの直接的な体験活動を通して身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供。

※ 子どもの心に不思議の種（ふしぎだね）を蒔く。色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした科学実験・科学工作のほか、他分野の学芸員との連携による内容の充実を図る。また、大学や高専、教育サークル、NPO 団体との協働イベントも実施し、より魅力的な運営を行う。

【対象者】 主に小中学生

【期 間】 令和 5 年度（通年）

⑧子ども自然学び教室【新規】

- 【内 容】 自然系を中心に、地質・植物・動物分野の学芸員による体験型の学習教室。
- ・家族みんなで安心して参加できる室内体験教室
- 場所：実験・工作室及び講堂
- 内容：動物（ちりめんモンスターをさがせ）、植物（草木染体験）、地質（アンモナイトを作ろう）等
- ・フィールドに飛び出して本物に触れよう！野外観察会
- 場所：江津湖、立田山、上天草市等
- 内容：動物（生き物観察会）、植物（植物観察会）、地質（化石観察会）等
- 【対象者】 主に小中学生
- 【期 間】 令和５年度（６回実施予定）

（３）博物館実習受け入れ

①博物館実習

- 【目 的】 博物館は、学芸員をはじめとする博物館に関わる人材を育成する責務を有しており、職員自身も実習生の指導を行うことで、学芸員としての基礎・基本を再確認できる。このような実習受け入れを通して、当館の質の向上につなげるもの。
- 【内 容】 文部科学省作成の「博物館実習ガイドライン」に基づき、実習生を受け入れる。
- ・実習生は公募受付け
 - ・当館の実情を踏まえたカリキュラムを作成
 - ・評価項目は「出席状況」「実習態度」「理解・知識」「能力」「実務状況」
 - ・実習期間は８月下旬（６日間）
 - ・受け入れは自然系１０名、人文系８名（合計１８名の予定）

3 保存修復事業

①熊本博物館屋外展示 SL アスベスト飛散防止状況調査

- 【目 的】 2021 年 4 月の「大気汚染防止法」の改訂に伴い、SL の蒸気機関部分の断熱材に含まれるアスベストの飛散状況等を再検査し、必要な飛散防止対策を講じる。
- 【内 容】 前回のアスベスト調査（平成 17 年に実施）の結果をもとに、配管部や前面蓋部に塗布されていたと思われるアスベストの現状を点検するとともに、機関車周辺の空気環境調査も実施する。アスベスト含有部については飛散防止のための対策に活かす（除去・塗料で硬化等）。

②生人形修復業務委託

- 【目 的】 経年劣化等により破損した当館蔵（江島栄次郎作）の生人形の頭等を修復する。
- 【内 容】 経年劣化やリニューアル前の収蔵環境等により破損した生人形を修復し、調査研究・展示に耐えうる状態に戻す。

③紅系威二枚胴童具足（べにいとおどしにまいどうわらべぐそく）修復業務委託

- 【目 的】 当館蔵の細川藩主所用具足を修理し、鎧立てを新調するもの。質の高い歴史分野館蔵資料数を増やし、永青文庫からの借用資料等と合わせて更なる集客力アップを図る。
- 【内 容】 現状において全体的な塗漆・忍緒（兜の顎紐）の劣化が見られ、繰締の緒（胴を締める緒）は欠失。劣化・欠失部分を補修・新調し、童具足用の鎧立てを新規に製作する。なお、細川藩主所用具足は永青文庫所蔵品以外、残存例は稀少である。

4 施設整備事業

①熊本博物館プラネタリウムプロジェクター更新【新規】

- 【目 的】 プラネタリウムを安心・安定的に運用するために、電球式の旧プロジェクターを LED 式の新プロジェクターに更新するもの。
- 【内 容】 既存プロジェクター（電球式）が令和 5 年度（2023 年）にメーカーサポートが終了することにより、故障対応、機器オーバーホール及び電球の供給が困難になることから、新たに LED 式のプロジェクターに更新するもの。また、光源がレーザーとなることで現在のような定期的な電球交換が不要になることや、明るさが現在より 1.7 倍となり、投映される映像の明るさや色合いが向上する利点がある。

②収蔵庫の拡充【新規】

- 【目 的】 今後の収蔵活動について検討を行った結果、近い将来に収蔵庫が不足する見通しとなったため、博物館敷地内のプレハブ倉庫の改修を行い、収蔵スペースの拡大を図る。
- 【内 容】 令和 5 年度の実施へ向けた基本計画策定の予算化には至らなかったが、保存資料の縮小として、寄託品の返却と資料の整理を行うことや、資料増加の抑制として、資料の収集方針の見直しと寄贈受入の厳格化により、収蔵機能の長寿命化を図る。また、資料収蔵活動は今後も博物館活動の一環として継続していくため、長期的な視点により、今後も新たな収蔵庫の新築や改修等の収蔵計画を継続して検討していく。

5 塚原歴史民俗資料館関係

(1) 展示活動（企画展等）

①収蔵品展（仮題）

- 【目 的】 本年度は開館 40 周年を迎えることから、本館建設のきっかけとなった塚原古墳群の資料を中心に展示する。
- 【内 容】 発掘資料及び調査時のパネル当を中心に展示
- 【期 間】 令和 5 年 10 月 31 日～令和 5 年 12 月 24 日まで（48 日間） 予定

(2) 資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

①考古学講座

- 【目 的】 講義を通して、学ぶ楽しさや考古学への興味をもってもらい、文化財愛護心の高揚を図る。
- 【内 容】 考古学の成果をもとに、毎回違ったテーマで講義を行う。年 10 回開催。熊本博物館・熊本市文化財課・周辺市町村職員等の職員にも依頼し、最新の発掘調査成果等の話なども織り込む。
- 【期 間】 令和 5 年 5 月～令和 6 年 2 月 ※日程調整中

②古文書講座

- 【目 的】 古文書の解読を通して時代背景を知ることにより、歴史のおもしろさを学ぶ。
- 【内 容】 館外講師に依頼して実施。年間テーマに沿って、古文書の解読や時代背景について学ぶ。年 10 回開催。
- 【期 間】 令和 5 年 5 月～令和 6 年 2 月 ※日程調整中

③塚原子ども体験塾

- 【目 的】 様々な体験を通して、先人のものづくりを学びその素晴らしさを実感する。
- 【内 容】 塚原歴史民俗資料館及び熊本博物館の学芸員が講師となり、ワークショップ形式の様々な体験プログラムを実施する。年 10 回開催。
- 【期 間】 令和 5 年 5 月～令和 6 年 2 月

④学芸員と歩く野外博物館

- 【目 的】 塚原歴史民俗資料館周辺に残る豊かな自然や文化財を訪ね、その魅力を実感してもらい、自然や文化財への興味を持たせる。
- 【内 容】 塚原歴史民俗資料館周辺の野草観察や遺跡の探訪。
- 【期 間】 令和 5 年 10 月 ※日程調整中

⑤各種体験教室（土器づくり・勾玉づくり・埴輪づくり・古代織づくり

・編布づくり・藍染 等）

- 【目 的】 各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。
- 【内 容】 熊本市に所在する資料などを基に作成した体験道具を使ったモノづくりや昔遊び及び伝統的手法を体験する。
- 【期 間】 令和 5 年 5 月～令和 6 年 3 月 ※日程調整中

（3）博物館実習受け入れ

①博物館実習

- 【目 的】 博物館は、学芸員をはじめとする博物館に関わる人材を育成する責務を有しており、職員自身も実習生の指導を行うことで学芸員としての基礎・基本を再確認できる。このような実習受け入れを通して、当館の質の向上につなげる。
- 【内 容】 文部科学省作成の「博物館実習ガイドライン」に基づき、実習生を受け入れる。
- ・実習生は公募受付け
 - ・当館の実情を踏まえたカリキュラムを作成
 - ・評価項目は「出席状況」「実習態度」「理解・知識」「能力」「実務状況」
 - ・実習期間は 8 月 23 日～8 月 28 日まで（6 日間）
 - ・受け入れは、人文系 1 名